

水産試験研究評価会議結果

1 機関名

水産試験場、栽培漁業センター、内水面総合センター

2 開催日時

平成16年8月10日(水) 13時30分～17時

3 出席者

〔委員〕

廣石 伸互 (福井県立大学生物資源学部 教授)
中添 純一 (独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 所長)
森川 良子 (美浜町教育委員会 社会教育指導員)
小川佐左エ門 (福井県漁業協同組合連合会 会長)
牧野 隆雄 (福井県かん水養魚協会 会長)
富岡 啓二 (福井県農林水産部水産課長：内部委員)

〔オブザーバー〕

安達 辰典 (水産課参事) 松崎 雅之 (水産課主任)

〔実施主体〕

若林 健一 (水産試験場場長) 鈴木 康仁 (栽培漁業センター所長)
石原 孝 (内水面総合センター所長) 岡部 健一 (栽培漁業センター主任研究員)
清水 弘明 (栽培漁業センター主任研究員) 上奥 秀樹 (栽培漁業センター研究員)

〔事務局〕

村本 昭市 (水産試験場海洋資源部長) 成田 秀彦 (水産試験場主任研究員)
杉本 剛士 (水産試験場主任研究員)

4 評価範囲

(1) 研究課題評価

〔事前評価課題名〕

小型漁船漁業の多元的資源管理の研究(サヨリ船曳網漁業)(水産試験場)
バフウニの資源回復対策の研究(水産試験場)

〔中間評価課題名〕

クルマエビの親エビ養成技術の開発(栽培漁業センター)

〔事後評価課題名〕

若狭ふぐの高品質化養殖技術の開発(水産試験場)

5 総評概要

事前評価の2課題については、B評価であった。

中間評価の1課題については、A評価であった。

事後評価の1課題については、B評価であった。

【 中 間 評 価 】（栽培漁業センター）

研究課題名	クルマエビの親エビ養成技術の開発（H13 - H17）
研究目的 および 進捗状況	クルマエビのウイルス性疾病対策として、人工種苗を養成することにより、ウイルスに感染していない健全な親エビを確保する。 早期採卵技術を開発することにより、年内漁獲等、効率的なクルマエビの栽培漁業を展開する。 〔進捗状況〕 人工種苗を親エビまで養成し、早期採卵が可能な段階まで技術開発することができた。
総合評点	A
主な意見	3年間の技術開発の結果、ほぼ安定した性成熟を促すことが出来たことは評価される。 本課題の成果は、健全な種苗を大量に生産することにつながるものであり、今後の状況によっては養殖用種苗としての活用が期待される。

【 事 後 評 価 】（水産試験場）

研究課題名	若狭ふぐの高品質化養殖技術の開発（H8 - H15）
研究目的 および 成 果	若狭フグの養殖技術の改善、経営の合理化を図るとともに、持続的な漁場利用を目指した環境保全対策に取り組む。 〔成果〕 低密度と低給餌率の組み合わせによる飼育で、健康で環境に優しく、成長の良いトラフグ生産が可能であると考えられた。 県内の養殖漁場環境は良好で、保全を図ることが必要。 エラムシの卵を捕食する魚類の存在が明らかとなり、今後この手法の開発が必要。
総合評点	B
主な意見	エラムシをどの位まで少なくするのが目的か、目的設定が必要。 推薦する飼育方法では成長が若干劣るが、経済性にまで踏み込んだ解析がなされるとより適切なものとなる。 食の安心・安全が強く望まれている中で、今回開発された技術は福井県におけるフグ養殖業の発展に大きく寄与すると評価される。